

地理的に離れた場所に点々と分布する稀少種の現状を、DNA 塩基配列情報を使って調べています



自然・環境評価研究部 系統分類研究グループ

秋山 弘之

日本には、絶滅危惧種としてコケ植物が 283 種指定されています。2020 年現在で日本から約 2000 種弱のコケ植物が知られていますから、全体の 14.2%にあたります。そういった種は特定の環境にだけ生きていけるものが少なくありません。そして、生育に適した環境が離れた場所にしか存在しない場合、小集団をつかってほそぼそと生き続けることになります。このような生き方をしているコケ植物は各地の集団の間でどのような関係を維持しているのでしょうか。それを現地調査と、形態の比較、DNA 塩基配列情報を使って調べています。

調査のために、日本国内だけでなく東アジアや東南アジアの各地に調査に出かけ、解析のためのサンプルを入手します。無断で植物を採集したり国外に持ち出して良いわけではありません。コケ植物にとっての良い環境の場所は、その多くが国立・国定公園に指定されていますから、調査の前には事前の許可が必要です。外国での調査はその国の研究者との共同調査として行うことになります。手続きは面倒ですが、いろいろな人と知り合いになれるのは楽しいことでもあります。

調査地の一例 東京都八丈島 八丈富士の火口壁内部に発達する蘚苔林



解析結果の一例 オオタマコモチトゴケ属の分子系統樹

